

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

ひつじかいの

しょうねん

少年、ダビデ



ぶん
文: Edward Hughes

え
絵: Lazarus

かいさくしゃ
改作者: Ruth Klassen

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ
出版社: Bible for Children

www.M1914.org

©2007 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし また
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、
きよか
許可されています。



ずっとむかし、まだサウルがイスラエルの王さまだったときのお話です。ダビ
デという名の男の子がいました。ダビデは、7人のお兄さんを手伝ってお父さ
んのヒツジやウシの世話をしていました。かれは、いちばん末っ子ですがけれど、
とてもつよく、勇気のある少年でした。それに、いつも神さまを愛しこころか
ら信じていました。その子は、

ベツレヘムをいう町にすん
でいましたよ。



いちど、こんなことがありました。ライオンがヒツジのむれをおそって、小さな
子ヒツジをつかまえてしまいました。ライオンは、きっとヒツジを自分の晩ごは
んにするつもりだったのでしょ。そのときダビデは、

子どももつだったのですが、ライオンにおそいかかり
ました。そして、ライオンの口からそのヒツジ
をうばいかえたのです。次に、うなっている
ライオンのヒゲをつかんで殺してしまいまし
た。そのときダビデは、思いました。きっと神
さまがいっしょにいて、

自分を助けて
くださったの

だって。



かみ

しゃ

かな

そのころ、神さまのよげん者サムエルは、まだサウルのこと、悲しくてたまりません。なぜなら、サウルは、すっかり神さまからはなれてしまったのですから。「いったい、いつまでサウルのこと、でなげくつもりなのか。」

かみ

かみ

い

神さまは、こう言ってサムエルをしかったです。「サムエル、わたしはあなたをエッセイのところにつかわそう……。それは、わたしがエッセイのむすこの1人を次の王としてかんがえているからだ。」

ひとり

つぎ

おう



じつはね、エッサイという人は、ダビデのお父さんでした。サムエルは、神さま
の言われることにしたが、もうひとりの王さまをさがしに行くことにしまし

た。でも、もしサウル王がそのことを知ったら、たいへんなこと
ですね。サムエルをころすかもしれません。けれども、
よげん者サムエルは、神さまにしたがいました。





まち
サムエルがエッサイのいる町についてと
じぶん
き、エッサイは自分の7人のむすこたちに
まえ ある
サムエルの前を歩かせました。ところが、
み い
サムエルはかれらを見て言いました。

しゅ
「エッサイ、主がえらばれたのは、このむ
すこたちじゃありません。」このとき、ダ
ビデだけここにいませんでした。ダビデ
は、ちょうどヒツジのせわをしていたから
にい
です。そこで兄さんたちは、ダビデをへや
なか しゅ
の中につれてきましたよ。すると、主がす
た
ぐにサムエルにこたえられました。「立ち
あぶら
なさい。そしてかれに油をそそぎなさい。
ひと しゅ
まさに、この人こそ主がえらばれたもので
ある。」

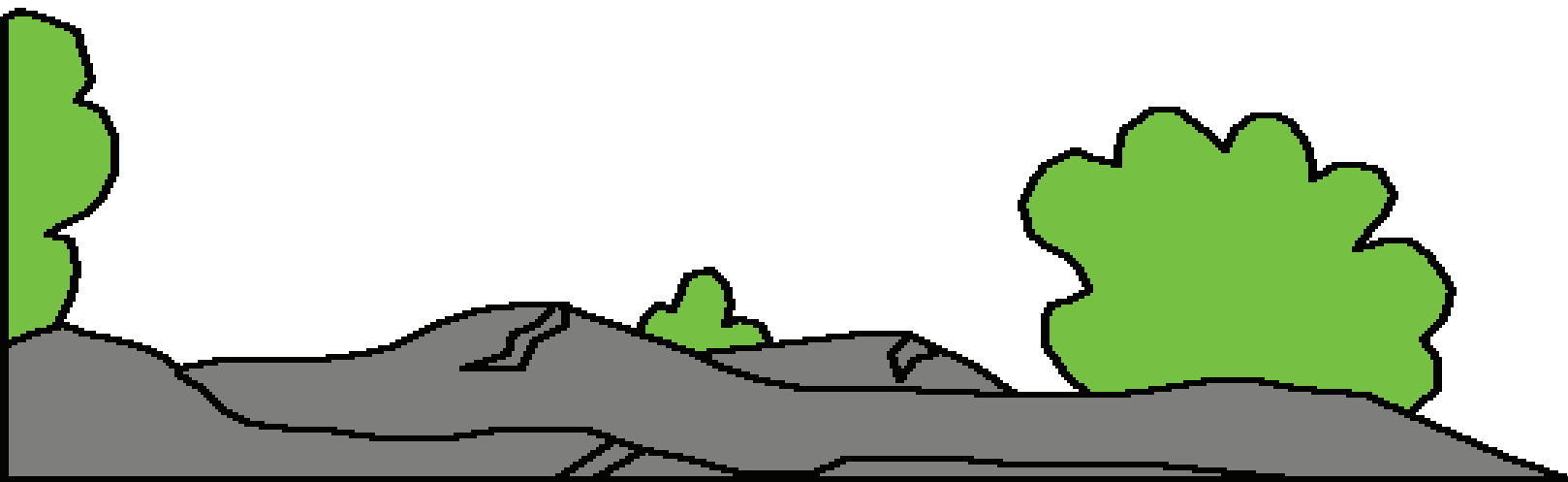


さて、そのころサウルのおしるは、いったいどうなっていたでしょう。じつは、
主の霊しゅ れいがサウルからすっからはなれてしまい、かれの心には安らぎやすやよろこびが
ありません。 サウルつかのめし使おもいたちは、こう思いました。

もし、サウルがうつくしい音楽おんがく きを聞いたな
ら、かれの心はおちつきこころ、やさしくなる
かもしれないと。めし使つかいの1人が、
ハープをととてもじょうずにひく
わかい男おとこ ひと しの人を知っていま
した。みなさん、その人は
だれかわかりますか。
そうなのです。その人は
ダビデひとですよ。



ダビデが^{とう}お父さんのうちへ へ かえってからのことです。サウルとペリシテ人との^{じん}
^{おお}あいに^お大きなたたかいはじまりました。ダビデの兄さんたちは、サウルの軍^{ぐん}
^{はい}たいに入り、ペリシテ人^{じん}とたたかいましたよ。エッサイは先^{せん}とうに立^たってたた
^{しんぱい}かっているむすこたちが心配です。「ダビデ、兄さん^{にい}たちに食^たべものをもって
^みいて、どうしているか見^みてきておくれ。」エッサイは、こう言^いってダビデ^{にい}を兄
^いさんのところに行かせました。



あれっ！ものすごくでかいペリシテ人がいますね。かれの名まえは、ゴリアテ。
イスラエルの兵士たちをととてもこわがらせていました。



「やい、イスラエルの兵士ども！おまえたちの中から1人えらんでおれのところへつれてこい！」ゴリアテは、大きな声でさげびました。「もし、そいつがおれ

と戦って、おれをころしたなら、われわれペリシテ人はおまえたち

イスラエルに仕えよう。だが、もしおれが勝ったなら、イスラエルは、ペリシテにつかえるのだ。わかったな！」ほんとうに

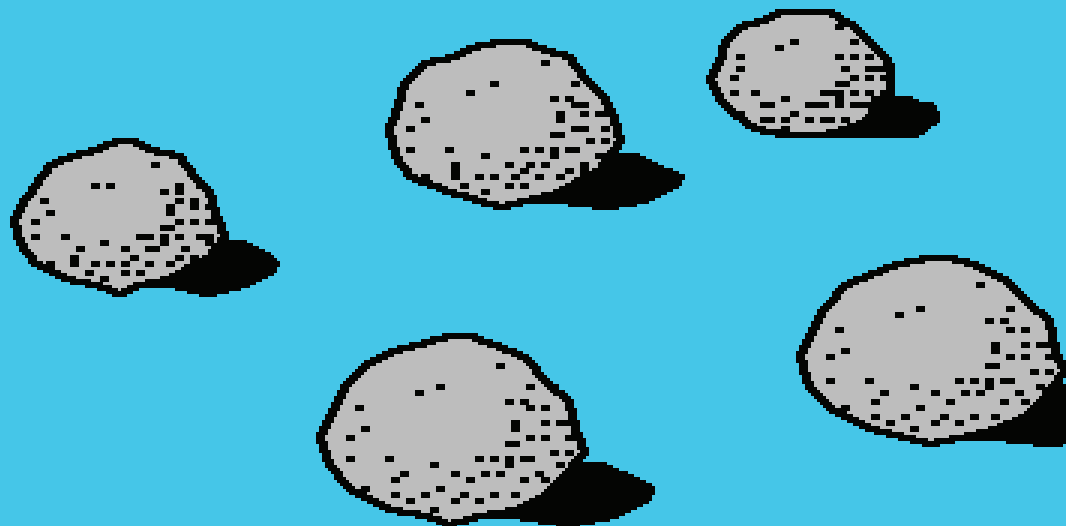
大きくて強そうです。

イスラエルの男たちは、「ああ、おそろ

しい！」と言って、みんな急いでにげましたよ。



ゴリアテのことを知^しったダビデは、サウルに言^いいました。「王^{おう}さま、イスラエ
ルは、ゴリアテなどこわがることはないのです。あなた^めの召^めしつかいであるわ
たしが、ゴリアテの^いところへ行^いって、やっつけてまいりましょう。」そこで、
サウルは、自分^{じぶん}が戦^{たたか}うときのよろいや、かぶと、そして刀^{かたな}をダビデにわたし
て、それら^{つか}を使う^いように言^いいました。でもね、ダビデはゴリアテとたたかうの
にサウルのかぶとや、よろいや刀^{かたな}を使^{つか}わなかったのですよ。じゃ、何^{なに}を使^{つか}った
のでしょ^{おがわ}う。小川^{おがわ}でひろったつるつるした5つの石^いと、石^いなげ器^{いし}です。それら^き
をも^いってゴリアテの^いところに行^いったのです。



「ハッ、ハッ、ハッ、なんてちっ小っぽけなやつだ。それに、よろいもかぶともつて
ないじゃないか。」ゴリアテはおおごえ大声でわらいました。そして「おまえのからだ

をバラバラにして、そら空をとんでいる鳥や、
のほら野原をウロウロしているけものたちのえ
さにしてやろう。さあ、かかってこ

いい！」と言ってどなりちらしました。
そこでダビデは、「わたし
は、ただしゅ主の名により、あなたの
ところにやってきたのです。」
と答え、いこう言いました。

きょう「今日、しゅ主はあなたをわたしに任
せられ、か勝たせてくださるでしょ
う……。このたたかいは、
しゅ主のものなのです。」



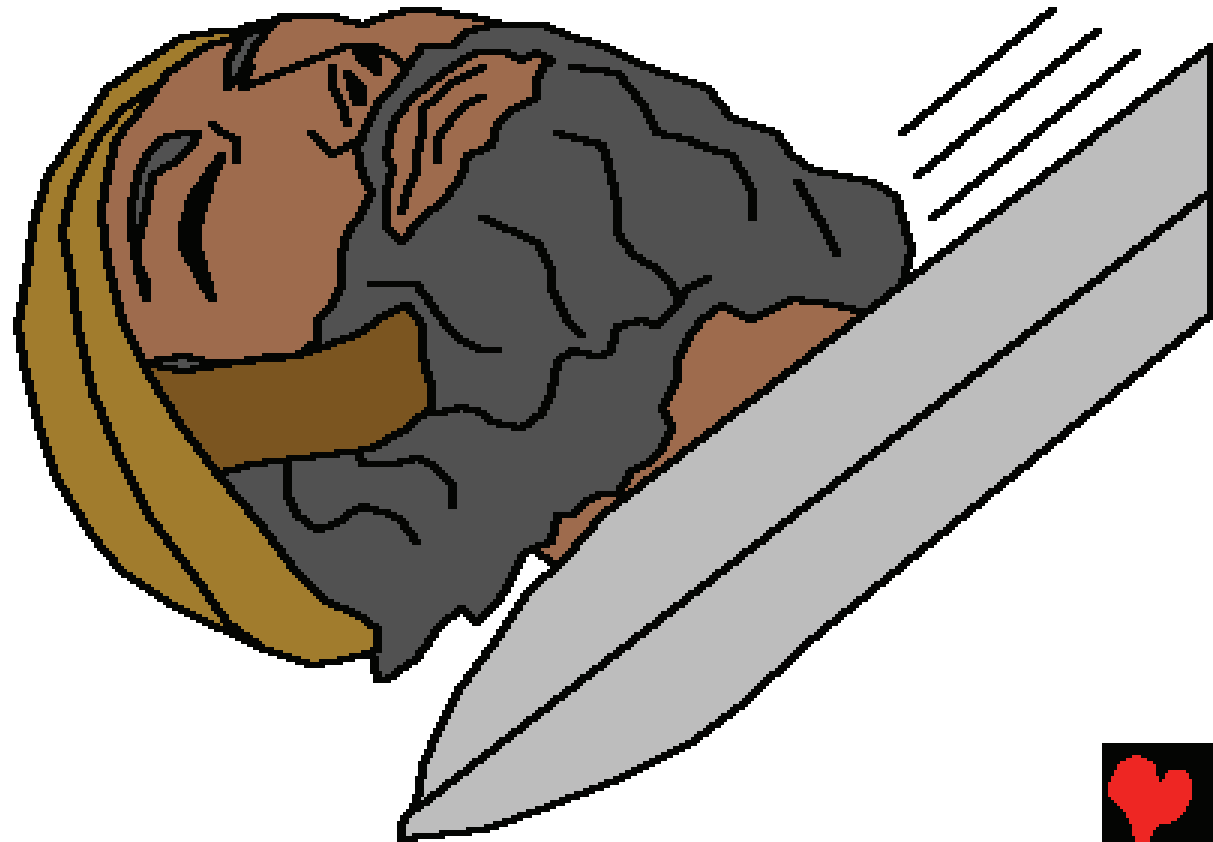
さあ、ダビデはゴリアテにむかってまっすぐに進んでいきましたよ。ダビデ
は、走りながら、石なげ器から1つの石を、ゴリアテにむかって投げつけまし
た。それは、ちょうどゴリアテのひ
たいにめい中したのです。

ドシン！ものすごい音です。

あっ、ゴリアテは地めんじ
にひっくりかえっていますよ。



ダビデは、すぐにゴリアテの^{おお}大きい^{おお}大きい^{かたな}刀をとりあげ、^きかれのあたまを切り
おとしました。^{おお}大きなゴリアテが^し死んでしまったのを見た^みペリシテ人、みんな
びっくりです。「わあ、たすけてくれー。」^いと言いながら、いちもくさんに
にげていきました。



そのとき、サウル王は、ゴリアテをやっつけた人が、前にハーブをひいて自分を
なぐさめてくれたダビデとは、まったく気づきませんでした。あとでそのことが
わかり、きっとおどろいたことでしょうね。それから、

サウルはダビデを自分の軍たいの長として、
はたらいてもらうことにしました。ところが、

それからサウルとダビデの仲がだんだ
ん悪くなっていくのです。



たたか か ひとびと
ダビデが戦いで勝つたびに、人々はダビデをほめたたえるようになったからで
す。サウルは、ダビデにしっとし、こう言ってにくしみはじめたのです。「いま

い
やダビデは何でももっているじゃないか。わたしの
なん

おうこく なん
王国のほかは何でも・・・」サウルは、

しん
ダビデを信じないで、いつもうたがいと

こころ み
にくしみの心をもって見つめるよう
なりました。



こころ

またしても、サウルの心にはやすらぎがなくなっていました。そこでダビ

こころ

デは、サウルの心をなぐさめようと、うつくしい音楽を聞かせましたよ。とこ

おんがく き

おと き

さんかい じぶん

ろが、「あっ、あぶない！」サウルはそのきれいな音を聞きながら、3回も自分

な ころ

のやりをダビデに投げつけ、殺そうとしたのです。

でも、そのたびにダ

ビデは、そのやり

ますますダビデがお

からうまくにげることができました。サウルは、

しゅ

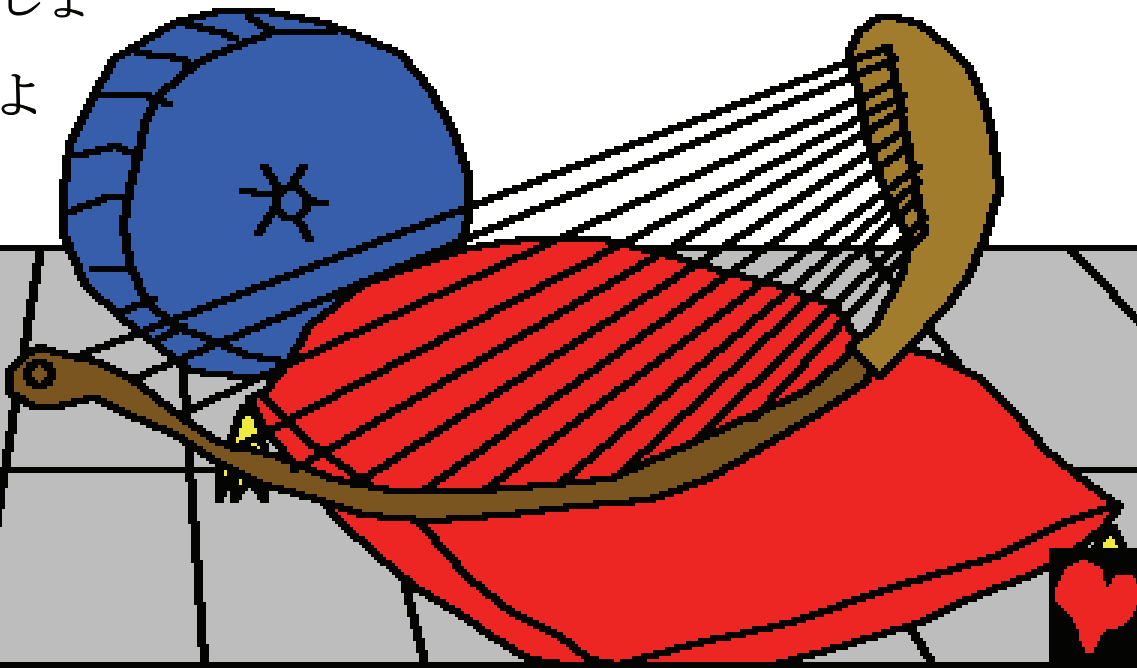
そろしくなりましたよ。どうしてって、主はサウルからは、はなれてしまったけ

れど、ダビデとは、いつもいっしょ

まも

にいて、守っていられることがよ

くわかったからです。



ところが、サウルのむすこヨナタンは、^{だいす}ダビデが大好きでまるでほんとうの兄さん^{にい}のように^{おも}思っていました。あるときヨナタンは、^いダビデにこう言いました。

「^き気をつけて！^{とう}ぼくの父さんは、^{ころ}あなたを殺そうとさがしまわっています。」^{いそ}そこで、ダビデは急いでにげることにしました。じつは、^{なか}ダビデのおくさんは、^{にんぎょう}かれのベッドの中に人形^いを入れておいたのです。そして、^{よなか}ま夜中にダビデを^おまどから^{つか}つり下ろしに^{つか}がしてくれました。さて、サウルの使いがきて、^{ころ}ダビデをつかまえて殺そうとしたのですが・・・。
ダビデはもうベッドにいませんでしたよ。



ダビデはサウルからののがれて、^{ところ} ^い所に行かなくてはなりませんでした。
ダビデがにげる前^{まえ}、かれとヨナタンは、おたがいに^{なん}何^{なん}でもしっかりとやくそく
くしました。そのやくそくっていうのはね、「これからも2人は、いつも助け^{ふたり}
^あ合^{たす}っていこう！」というものでした。



かなしいことに、この2人はそれからすぐに「さようなら」を言わなければなりませんでした。ダビデは、これから生きていくところをさがしに出発したからです。もうサウルの兵士に見つからないところをさがしにね。



しょうねん
ひつじかいの少年、ダビデ

かみ み せいしょ しる
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

きじょう しょう しょう
サムエル記上 16 章 - 20 章

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っ^{おも}ていら^{おも}っしゃるのです。

かみ わたし かみ
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していら^{かみ}っしゃいます。それを、神さま
は、罪^{かみ}とよばれて^{かみ}います。その罪のむくい^しは、死^しです。

かみ あい ひとり こ
けれども、神さまは、あなたをと^{かみ}ても愛^{あい}していら^{ひとり}っしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ
よ おく つみ じゅうじかじょう な
の世に送^よって^{おく}くださ^{つみ}いました。そしてあなたの罪のために、十字架^{じゅうじかじょう}上で亡^なくなられたのです。けれども
それから、イエスさまはよみがえられ、天国^{てんごく}のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ
まを信じ^{しん}、ゆる^{しん}してく^{しん}ださいとおねが^{しん}いするなら、イエスさまは、ゆる^{しん}してく^{しん}ださいます！イエスさま
いま ところ き なか す
は、今、あなたの所へ来^{いま}て、あなたのところ^{ところ}の中^きに住^{なか}んで^すくださ^すいます。そして、いつまでもイエスさ
まといっしょ^いに生^いきることが^いできますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信^{しん}じるなら、神さまにこう言^{かみ}って^いください。
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛^{あい}する神^{かみ}さま、私^{わたし}は、あなたが神^{かみ}さまと信^{しん}じます。あなたは人^{ひと}となり、私^{わたし}たちの罪^{つみ}のために亡^なくなっ
て^いくださ^いいました。そして、よみがえ^いって、いま生^いきて
いら^{わたし}っしゃ^{なか}います。どうか、私^{わたし}のところ^{なか}の中^きに^{つみ}来^{つみ}て、罪^{つみ}をゆる^{つみ}してく^{つみ}ださい。それで、私^{わたし}は今^{いま}、あた
らしい命^{いのち}を^{いのち}いただ^{いのち}けます。そして、いつか、あなたの所^{ところ}へ行^いき、いつまでもあなたといっしょ^いに^いいる
こと^こができる^いのです。あなたにした^こがえ^いますよう、あなたの子^ことして生^いきることが^いできますよう、たす
けて^いください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

